

希望
手

泉屋の黄回・トムヤのじ世

「母子子育て支援事業計画」で、母子世帯の支援策として民間アパートを活用した居宅支援事業の促進が挙げられている。2013年11月から同様の事業を実施しているのが、うるま市の「マザーズスクエアうるはし」だ。自立を目指す母子世帯に賃料として1年（最長2年）、アパート居住のための敷金・礼金と

居宅支援「うるはし」

第3部 ⑦

上限6万円の家賃を補助する。現在9世帯が利用し、これまでに利用した11世帯はいずれも自立を果たした。

4人の子を育てる女性(37)も昨年10月まで同事業を利用していた。専業主婦だったたな女性は14年夏に離婚。一時は娘の家に身を寄せたが、支援対象に決まり準備されたアパートに入居した。

「離婚の時に養育費はかかる
わなこと『約束した』へ頼んで
女性だが、うねはしの結婚は
養育費を求めるよう助言して
た。医療支援事業を運営する
県母子支援機構連合会の弁護士
士相談を利用し、元夫と交換
の合意に至った。

娘は希望校に合格。高校2年生になつた今、大学進学を目指し勉強に専念している。

「わいふし農じどうら」と課題を擧げる。
いっぽうは他に、自立支援の講座や利用者同士の交流事業を実施する。食料品や衣類の提供もある。16年度からは、利用者が就職活動などをする際に幼児の一時預かりも始める。

アパート家賃を補助

学習支援・家計簿チェック

女性は入居し、同時に3ヵ月の介護職員初任者研修を受け、就職につなげた。現在は介護事業所の正規職員として働く。「介護職について知識はなかったが、勉強したら面白かった。仕事も楽しい」と話す。さらなる技術向上を目指し、支援終了後にも実務者 diplomate に注目している。今後市

習支援を受けたことが挙げられる。当時中3年だった女性の娘も、事務所に隣接する教室で少人数制の学習支援を受けた。塾に入らなければ、高校にも関心を示さなかつた娘の成績は当初「下から数えた方が早い」（女性）という状況だった。しかし、支援が始まると学習意欲に火が付いた。熱意に応えて、支援のスタッフも補習を組んだ。

幸枝さんは、女性の支援が成功した」と口づいて「将来のビジョンを持っていたからだ」と語る。女性も「一步を踏み出す勇気をもらった」と感謝する。その一方で「支援が切れ、急に全額が自己負担になるのがきつかった。少しずつ支援から離れる」ことができたらしい」と希望を話した。新垣さんも「心身が疲れ

を擧げる。
「むほじは他に、自立支援の講座や利用者同士の交流事業を実施する。食料品や衣類の提供もある。16年度からは、利用者が就職活動などをする際に幼児の一時預かりも始める。

一方、利用者は毎月、家計簿をつけて職員に見せせる必要がある。期間遅延までに、最も低限の貯蓄として20万円をためることも求められる。「携帯代が高い、外食が多いなど厳しく指導する。でも、どの利用者も目標額をほぼ達成する」と新垣さんは話す。



間の離す方法を教わったがせ、支
付後も、自分で家賃を払い、岡
バートに住んでいた。ある東市

付いた。熱意に溢えて、支援きたらいい」と希望を話した。新垣さんも「心身が疲れのスタッフも補習を組んだ。

(子どもの貧困取材班)
(随時掲載)

これまで県内2万所で行われてきた同事業は、宮崎県市が16年度から実施。他にも開心を示す自治体が出ていた。新垣さんは「ただ居間費用を負担する事業ではない。利用者としてから話し合い、世帯ごとに柔軟に対応することが求められる」と自立に向かって支援成功の鍵を強調した。

【情報やご意見をお寄せください】

文化部生活班 098(865)51

[View all posts by **John**](#) [View all posts in **Uncategorized**](#)

seikatu@ryukyushimpo.co.jp

社会部 ☎(865)5158 用「チームいしがんとう」で発信中

在當時，「中國」這個詞，已經被廣泛地應用於對外關係中。